

令和 7 年度使用中学校用教科用図書採択結果等について

採択地区名	尾道市
-------	-----

種 目	発行者	採 択 理 由
国語	光村	・資料として「語彙ブック」があり、描写・言動・思考・コラムという分類で学年に応じた語句を整理している。また、デジタルコンテンツに「言葉の宝箱（小学校）」があり、語彙力を鍛えようとしている。 ・「話す・聞く」において、学校生活を話題に会議を開く単元が設定されている。合意形成の説明や話し合い例にポイントが示されており、身近な題材をもとに、見通しをもって話し合い活動を行うことができる。 ・持続可能な社会の創り手を育成するために、SDG s を題材にした特設教材「情報×SDG s」を設け、今日的な諸課題を題材として幅広く取り上げている。 ・各単元は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域と「知識及び技能」の内、複数の領域で構成されているため、基本的な知識・技能を定着させながら各領域の力の向上を目指しやすい。 ・教材ごとの二次元コードで動画や関連資料を見ることができるほか、C B T（コンピュータを使用した試験）形式の問題があり、解答のテキスト入力・自己採点ができ、生徒の主体的な学習に役立つ。また、発展問題も用意しており、学習の定着が図れる。
書写	光村	・書写ブックではスタートブックとして、姿勢、筆記具の持ち方、用具の準備、片付け等、学習活動の基本的なことをきちんと教えている。「タブレットを活用しよう」というコーナーを設定し、学びを深めるためにタブレットを活用する際の姿勢や持ち方を動画で示し、また、書いている際の姿を撮影して互いに確かめ合ったり、書いた文字を撮影して自己評価したりする活用方法を紹介している。SDG s と書写の関連付けがあり、SDG s の視点で考えることができる。また、左利きの人の用具の準備写真が掲載されており、左利きの生徒への配慮もある。 ・「考えよう」では、目的や場面に応じて楷書と行書の使い分けや、フォントなどの文字を使い分ける必要があることを学び、実生活に生かそうとする力を養うことができる。 ・行書の特徴を四つに整理し、「行書スイッチ」のイラストを用いることや、筆使いを擬音語で示すことで、文字の書き方への理解を深めるとともに書く楽しさを感じることができる。 ・楷書、行書の学習を経て、文字を使い分けることや日常に役立つ書式の学習という配列になっているため学習によって身に付けることの見通しがもてる。また、書写ブックを活用して、書く力の定着を図ることができる。 ・該当箇所の二次元コードからコンテンツにアクセスでき、「全国文字マップ」や「SDG s について考え、行動しよう」等、教科用図書に収録されていない関連資料を二次元コードで確認することができ、学習が広がる。文例に尾道市が使われている。

種 目	発行者	採 択 理 由
社会 (地理的分野)	帝国	・見開きごとにタイトルと「どのような」「どのように」といった学習課題を示している。加えて、思考を焦点化させる表現で章全体を通した問いを掲載しており、見開きの学習内容に係る問いだけでなく、生徒は、章全体の学習を通してどんな知識や技能を習得すればよいかを理解した上で、学びを進めることができるようになっている。また、ページ下部に「確認しよう」「説明しよう」を設けており、知識の定着と深化に効果が期待できる。 ・巻頭に「地理的な見方・考え方」を設定し「見方・考え方」として「位置や分布」「場所」「人間と自然の関わり」「他地域との結びつき」「地域の特徴」を示している。地理的な見方・考え方を働かせて自分の意見をまとめたり、他者と意見を交換したりする特設ページ「アクティブ地理AL」を設けている。「見方・考え方」を予め示していることにより、何を意識して考えればよいか、手掛かりにすることができ、かつ深い思考に結び付けることができる。 ・単元の導入で1ページを使用し、これまでの学習と地域のあり方の関係を図示し、2ページ目に章の問いを掲載することで、目標設定や問いの立て方についての手立てを示している。 ・巻頭ページで、「地理的な見方・考え方」や、考えを整理する方法として「マトリクス」「ベン図」「ウェビング」「ステップチャート」など4種の思考ツールとその活用方法を示しており、効率的かつ深く考えていくことができるようになっている。 ・本文ページのレイアウトを統一している。
社会 (歴史的分野)	東書	・見開きごとにタイトルと副題、「どのような」「どのように」といった学習課題を、思考を喚起する表現で示しており、生徒は興味をもって学習に臨むことができるようになるとともに、予め何を理解していればよいか明確になっている。また、ページ下部に「チェック」「トライ」を設けており、学習課題に対して理解できているかどうか確認できる。 ・「歴史的な見方・考え方」の解説を掲載し、特設ページでは「歴史的な見方・考え方」に基づいた課題を示しており、歴史の流れの「推移」、別のこととの「比較」、「相互の関連」「現在とのつながり」など、生徒が、どのような点に着目してどのように考えるか、科学的な思考を行うよう設定している。章のまとめでは「歴史的な見方・考え方」に基づいて思考ツールを活用しながら考えを深めていく課題を示している。 ・章の冒頭4ページを導入に使っている。絵図やイラスト等の資料の読み取りや話し合い活動を通し、探究課題につながるよう構成している。見開き右下に「探究のステップ」を設け、学習の見通しをもてるようにしている。 ・章立ては古代から現代へと時系列に沿っている。補充的・発展的な学習については特設ページ「もっと知りたい!」を、地域事例については特設ページ「地域の歴史を調べよう」を設け、本文の学習と関連したテーマを扱っている。 ・本文ページ見開きのレイアウトを統一し、本文の部分と側注等の資料の掲載部分を色分けしていることで、本時の活動において着目すべきことに意識をむけさせることができる。また、円グラフや帯グラフには文字や数字を入れる、複数のデータを掲載した折れ線グラフはデータごとに色を変えるなど、どのような生徒にとっても分かりやすい、ユニバーサルデザインに配慮したつくりとなっている。

種 目	発行者	採 択 理 由
社会 (公民的分野)	東書	・見開きごとのタイトルと副題が、「どのような」「どのように」といった学習課題について、思考を喚起する表現で示されており、生徒は興味をもって学習に臨むことができるとともに、予め何を理解すればよいかを明確にすることができる。また、ページ下部に「チェック」「トライ」を設けており、学習課題に対して理解できているかどうか確認できる。 ・「確かめよう」「ふり返ろう」により段階的に学習を振り返った後、複数の資料を活用しながら「深めよう」で多面的・多角的に考えさせている。効率的かつ深い思考となるよう「Yチャート」「ダイヤモンドランキング」などの思考ツールを活用している。 ・章の冒頭3ページを単元の導入に使っている。3枚の写真から学習内容を大まかにつかんだ後、導入の活動についてグループ学習、個人学習を行い、章の探究学習につなげている。3ページ目に「探究のステップ」として各節の問いを掲載している。 ・特設ページ「18歳へのステップ」、章末「深めよう」を設け、「S市の議員になって条例を作ろう」などの社会参加を促す内容としている。18歳に有権者となることが意識付けられるとともに、社会参画意識が醸成される効果が期待できる。 ・本文ページのレイアウトを統一し、資料の掲載部分に薄い色をつけ、本文との区別をしている。
地図	帝国	・巻頭に「この地図帳の凡例」「地図帳の使い方」を設け、一般図、鳥瞰図、主題図等の見方や使い方を記載している。鳥瞰図を掲載していることで、生徒にとって分かりやすく、興味をもって学習をすることができる。 ・「Q地図で発見!」のコーナーを設け、地図をもとに確認したり深めたりする問いを掲載している。 ・世界では州ごと、日本では地方ごとに、一般図の次に資料を掲載している。資料ページには鳥瞰図があり、生徒にとって分かりやすく、興味をもって学習をすることができる。身近な地域の情報の記載がある。 ・インデックスを「資料」「世界」「日本」「統計」「さくいん」という実際の活用にあつた分類となっており、色分けしてシンプルで分かりやすい表記としている。東京書籍より総ページ数が22ページ多く、地図や資料を豊富に掲載している。 ・デジタルコンテンツにアクセスできる二次元コードが記載しており、該当の地域についての資料、動画が一覧で表示している。

種 目	発行者	採 択 理 由
数学	東書	・章の学習につながる問いかけと共に各章のまとめりに「クイックチェック」を設定し、必ず身に付けたい問題を取り扱い、学び直しができるよう工夫している。コンテンツ内で証明の学習を助ける証明メーカーなど、証明が苦手な生徒も性質を考えながら証明を進めることができる。 ・生徒が主体的に学習したことを実生活と結び付けて活用し、説明したり話し合ったりできる課題を取り上げている。箱ひげ図とヒストグラムなど異なる図を比較して、その特徴を比較したり、箱ひげ図の誤った読み取り方について批判的に考察して説明したりするなどして、思考力・判断力・表現力等を育成することができる。 ・「深い学び」として、習得した知識・技能を活用して問題解決するページでは、飲み物を保冷バックに入れると、どれくらいの間、飲み物を冷たく保てるか考える等の生徒が解決したくなるような身のまわりの問題場面を設定し、「問題をつかむ→見通しをたてる（自分で考えてみよう、友だちの考えを知ろう）→問題を解決する（話し合ってみよう）→ふり返る→深める」という問題解決の過程を意識しながら活動させる工夫がある。 ・「数学の目で、振り返ろう」で、学年を越えて働かせることができる「見方・考え方」を確認できるようにしている。「数学の自由研究」で日常生活や他教科の学習と関連した課題やそれをレポートにまとめる活動を例示している。 ・デジタルコンテンツが豊富で、視覚的に確認できる。また多くの問いの類題がフラッシュカードになっており、学び直しに活用することができる。
理科	啓林館	・観察・実験にあたっては、「目的」「方法」「結果」「考察」で探究の過程を示している。さらに「方法」では「ステップ」で詳しい手順を示している。基本的な実験操作や器具の使い方、表やグラフのかき方は、「観察・実験などの技能」を設け、解説している。 ・「計画」の中で、既習事項と関連付けながら計画する視点を示している。また、巻末に探Qシートが単元ごとにある。分析解釈については、「考察」として示しており、考察の視点も示している。 ・分野ごとに、日常生活とのつながりを意識した科学コラムが充実しており、学校生活等とのつながりが実感できるような話題を提示している。「部活ラボ」「お料理ラボ」等がそれである。生徒の興味・関心を高め、理科の有用性を感じる事に役立っている。各単元に「探Q実験」を設定し、探究活動のための「探Qシート」を設け、生徒が書き込むことで、「自身で仮説を立て、その仮説を元に、自らが実験計画を立てる活動」が行えるようにしている。この科学的探究の過程に沿った学習活動は生徒の「科学的に探究する力」の育成に寄与している。 ・巻末資料では、探究に関することを多く書いている。単元末の発展探究活動では、学習内容の振り返りができる活動が仕組まれている。対照実験を行い、根拠を持って考察を行うことができる。コラムでは、学習内容を実生活につなげていく内容のものを多く掲載している。 ・動画コンテンツだけでなく、振り返りシートや、動かせたり編集できたりする多様なコンテンツがある。生徒にとって、学習したことを定着させたり、学びを広げたり、深めたりするものとなっている。教師にとっても、指導の助けとなっている。

種 目	発行者	採 択 理 由
音楽 (一般)	教芸	・教材ページの端に縦書きで学習目標と音楽を形づくっている要素、教材名の下に活動文を示している。 ・「学びのコンパス」で見方・考え方を働かせて深い学びを実現するための手立てを示している。旋律の特徴、強弱、終わりの音などを確かめ、表に整理し、曲の特徴や構成を話し合うなど、どのように歌いたいか考える活動を設定している。さらに、いろいろな表現を試す学習活動を示している。 ・「生活や社会の中の音や音楽」で音や音楽と生活や文化の関わりについての資料を掲載し、身の回りの音や音楽の果たす役割を理解し、音楽への関心を高める工夫がある。 ・第1学年では、歌唱教材、鑑賞教材、合唱曲集、楽典、国歌「君が代」の順に配列しており、創作については、関連する歌唱教材及び鑑賞教材のあとに配列している。第2・3学年は、歌唱教材、創作、鑑賞教材、合唱曲集、楽典、国歌「君が代」の順に配列している。 ・各教材に二次元コードを掲載し、パート別の旋律、ピアノ伴奏が再生でき、生徒が主体的に学習に取り組むことができる。また、内容や図等の補足説明を見ることがワークシートの活用ができる。
音楽 (器楽合奏)	教芸	・ページの最上部に見開き2ページ分の活動内容を示している。また、教材曲の下に活動文を示している。 ・箏の創作では、課題や条件にそって旋律をつくる活動がある。課題と条件を示し、箏のいろいろな奏法を試して、試行錯誤しながら学ぶことを設定し、旋律の反復や変化など一般の音楽の授業で習得したことを器楽においても活用して工夫することを想定している。伝統的な縦書きの譜面を多く掲載した上で、5線譜もあわせて記載するなど、我が国の音楽の伝統が伝わるよう工夫している。 ・ギターと関連付けて、ポップスのバンドスコアを掲載している。楽器への関心が高まり、タブ譜で演奏してみたいという意欲に繋がる。また、和楽器がジャンルを超えてコラボレーションしていることを掲載しており、生徒の多様な興味・関心に繋がる。 ・和楽器のページにおいては、楽器の奏法に関係することだけでなく、各楽器を用いた鑑賞曲も取り上げている。 ・アルトリコーダーの練習曲の運指を見開き左右どちらかにまとめて図で提示している。

種 目	発行者	採 択 理 由
美術	光村	・3年間で必要な「描く」「つくる」「写真」「映像」「発想・構想」「形・色・光」「色」について別冊資料（二次元コードを含む）を用意しており、生徒が参照しながら主体的に制作を進められる工夫がある。このように別冊資料として3年間活用できるよう1冊にまとめられている点は教師にとって使い勝手のよいものとなっている。また、美術に苦手意識がある生徒も動画を視聴しながら無理なく取り組めるよう工夫されているところがよいと考える。 ・美術作品の鑑賞の場面における言語活動の示し方を国語科とつなげ、美術鑑賞を広げる言葉をわかりやすく示している。生徒が感じとったことや、発想や構想の工夫を生徒自身の言葉で示している。 ・全ての題材に二次元コードを掲載しており、全国の生徒作品、解説動画、技法動画など、さまざまなコンテンツにアクセスでき、創作意欲を喚起するのに有効である。全体を通して多様な日本美術を掲載しており、日本の絵画を和紙のような風合いのある用紙に掲載したり、「四季」「動物」「不思議」「余白」「構図」のキーワードを手掛かりに鑑賞できるようにしたりするなど、日本美術への理解が深まるような工夫をしている。このように日本の絵画がもつ自然観や美意識を感じ取れたり、より本物に近い感覚で鑑賞できたりするなど、生徒の興味・関心、主体的な学びを促すことのできる場所がよいと考える。 ・題材を分野ごとに分けて配列している。題材の内容をページの左上に色と文字で示している。別冊の資料（全36ページ）がある。 ・各題材において、題材名の横に二次元コードで、技法動画、全国の生徒作品、書き込みツール、鑑賞解説動画、作家作品関連動画、美術史用語、地域作品などを示している。特に「体感ミュージアム」では、鑑賞作品に書き込みや、360度回して鑑賞できるようになっている。 ・教科書の裏表紙に学校生活や社会生活に役立つ資料を二次元コードで示している。このようにデジタル社会にマッチした、生徒の見方を深めることのできる多様な新しい鑑賞の仕方を工夫しているところがよいと考える。 ・別冊資料は、3年間に渡って活用できるもので、教師にとって指導しやすく、生徒にとって基礎基本の定着と創作での活動に有効なものになっている。
保健体育	東書	・「巻末スキルブック」を設け、保健体育で学んだことを日常生活や身の回りの健康や安全に関する課題で活用できるよう工夫されている。 ・「広げる」として学習した知識をもとに、日常生活との関連性に気付かせたり、さらに調べたりする活動を設定している。「活用する」では、思考力、判断力、表現力を効果的に働かせることができるように、シミュレーションや思考ツールに関するデジタルコンテンツを提示している。 ・見開き2ページを1時間の授業構成とし、ページのはじめに日常経験や資料、小学校で学習したことをもとに、学習課題にせまる「見つける」を設定しており、この「見つける」をもとに「学習課題」を示して、課題の解決に向けて授業が展開できるよう工夫している。 ・すべての単元において発展的な内容の資料を掲載している。例えば「章末資料（P50）」に「胎児を育てる母体の神秘ー胎盤とへその緒ー」という資料を掲載している。 ・二次元コードから、デジタルコンテンツ（動画）を掲載したページにアクセスすることができる。

種 目	発行者	採 択 理 由
技術・家庭 (技術分野)	東書	・内容A～Cの第3章及び内容Dの4章の最初の項に「情報の技術の最適化」という項目があり、また、その項の冒頭では、生徒のつぶやきを吹き出しで記載している。このことにより、これまでの学習を振り返らせ、自分の問題解決と社会における問題解決について考えることができる。 ・技術分野のガイダンス「技術の見方・考え方」の中に、「技術の最適化」について1ページ分の漫画を掲載している。このことにより製品が、社会からの要求・安全性、環境への負荷、経済性から折り合いをつけ、最適化されていることについて理解しやすくなっている。 ・「未来のtechnology」において、これまでの学習を踏まえ、「技術の評価、選択、管理・運用（技術ガバナンス）」「未来に向けた技術の改良、応用（技術イノベーション）」について考えるためのワークシートがある。 ・各内容と問題発見のためのテーマを挙げ、製作例などで解決への手順を示すとともに、「もっと問題解決」でさらに問題解決例を挙げている。 ・「デジタルコンテンツを活用しよう」のページがあり、デジタルコンテンツの一覧表示用の二次元コードを示しているとともに、全てのページに「Dマーク」と二次元コードを示している。7種類のデジタルコンテンツを用意しており、「動画」や「図鑑」は道具の使い方を知りたい時、「思考ツール」や「ワークシート」は考えを整理したい時、「シミュレーション」は電気の流れや機械の動きについて理解したい時に主体的に活用できる。このように、豊富でさまざまな種類のコンテンツを取り揃えていることにより、その日の授業の用途に適したコンテンツを多くの選択肢の中から選ぶことができ、的を絞った学習を実現させることができる。
技術・家庭 (家庭分野)	東書	・「実習を楽しく安全に進めよう」を巻頭に掲載し、食物アレルギーや感染症予防にも気を付けて、安全に実習に取り組むためのポイントをまとめている。 ・「生活の課題と実践の進め方」を掲載し「1 課題を決めよう 2 計画を立てよう 3 家庭や地域で実践しよう 4 評価しよう 5 改善しよう 6 次の課題に挑戦しよう」というように課題解決の流れを示している。このことにより課題の活動を実践し、振り返りで評価改善し、言語表現することで科学的理解を定着・深化するという学習の流れを生徒に意識付け、ゴールを見据えた学習を実現することができる。 ・「生活に生かそう」が学習のまとめの中にある。このことにより、授業で学習したことをもとに、自分の生活を見直し、自分の家庭生活をよりよくする方法を記述できるため、家庭分野の見方・考え方である「生活に始まって生活に返す」ことをしっかりと示し、生活の課題を実践につなげることができるようになる。 ・「生活に生かそう」が題材ごとであり、生徒が実践しやすい、具体的な内容を豊富に示している。 ・授業で利用できるワークシートや思考ツール、基礎機能や幼児に関わる動画など、豊富でさまざまな8種類のコンテンツを取り揃えている。このことにより、料理を指定するだけで食品群別摂取量を自動で計算・グラフ化するなど、用途に適したコンテンツを多くの選択肢の中から選ぶことができ、的を絞った学習が実現できる。

種 目	発行者	採 択 理 由
英語	開隆堂	・「PROGRAM」では「Listen」から始まり、その後「Speak&Write」の活動がある。「Part1Part2 (Listen & Read)」では、基礎・基本的な内容を学習する構成となっている。単元の終末では、Retelling活動や目的・場面・状況を意識し、既習事項を活用して活動する言語活動を設定している。 ・「Program」の最後にリテリングして話す活動、「Review & Retell」では単元の内容を振り返り自分の言葉で伝える活動、「Action」では「読む」「書く」「話す」活動を通して自分の考えを他者と交流する活動、「Power-Up」ではインタビューを「聞く」活動からインタビュアーになって相手にたずねる「話す」活動、場面を設定し相手意識をもたせて英語で表現する活動等、4領域を統合した活動になるよう工夫している。 ・新出表現の導入をマンガ形式で掲示しており、新出表現がどのような目的・場面・状況で使われるのかを視覚的に容易に理解できる。二次元コードを読み取ると、教科書同様の漫画がスライドで表示され、英語音声とともに英語表示の有無を選択でき、自主学習に有効活用できる。新出文法が、どのような目的・場面・状況で活用できるのか、会話の中で視覚的に音声とともに理解することができる。各単元の「Part」に入る前の「Tuning in」では、本文のテーマについて話し合う活動や会話を聞き内容を確認する活動を設定している。 ・「Scenes」で「聞く」「やり取り」「書く」活動をする。単元末にActionで「やり取り」の活動がある。ステージ末に「Our Project」（統合問題）がある。「Part1」から「Part3」では、新出文法が1ページずつ学習できるようになっており、授業者にとって扱いやすい。本文理解と言語活動を同じページで扱っていない仕様も評価できる。導入に本文を「聞く」活動を設定している点も評価できる。モデルを例示し、マッピングやメモなどを活用しながら、自分の考えをスモールステップで英文で作成することができるように構成している。 ・二次元コードを設置し、学習に役立つ本文や語句の音声、題材導入動画や文法解説アニメーション、発表モデルや単語アプリなど、多岐にわたるコンテンツを用意している。巻末に「Word Web」と「巻末資料」を掲載している。
道徳	東書	・教材文の終わりに「考えよう」「みつめよう」のコーナーを設け、マークとともに発問を記載している。また、「ぐっと深める」の発問により、さらに思考を深めるための発問も記載している。 ・巻頭「道徳の授業はこんな時間に」の中に、話し合う学習活動、話合いのポイントを示すとともに、教材文の終わりの「Plus」に、直前の教材に関する話合いの具体的な流れを示している。 ・「Plus」を設け、目次及び該当ページにマークを付けて示し、教材の終わりに探究の対話「p4c」や「対話の流れ」等、多様な問題解決学習の手法を設定しており、生徒が考えを深め、それを安心して交流できる工夫がある。生徒の心に響く副題がある。 ・付録に「SDGs」と関連する教材があるとともに、いじめの問題をテーマとした、3つの教材と扉ページ等の構成でユニット化した「いじめのない世界へ」を設けており、生徒にとって問題を掘り下げて考えられるものになっている。 ・「朗読音声」「ワークシート」「Webサイト」「資料」「VR映像」「心情円」「映像」「他教科リンク」などを二次元コードとともに示しており、多種多様な情報を活用したり体験したりすることができ、生徒に興味関心をもたせることができる。